令和元年度

大学院生による授業評価結果報告書
（前期分）

鳴門教育大学　大学院学校教育研究科

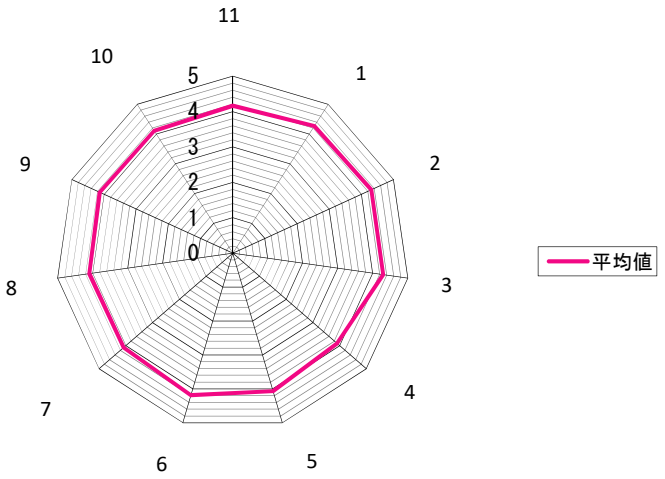
頁数	科目区分	科目コード	科目名	担当教員名
3	心理臨床	M1AA010C	子どものこころへのアプローチ	小倉　正義,吉井　健治,田中　淳一,山崎　勝之,内田　香奈子,高橋　眞琴
4	心理臨床	M1AA030C	福祉分野に関する理論と支援の展開（障害者（児）心理学特論）	小倉　正義,川西　智也,田中　淳一,高橋　眞琴
5	心理臨床	M1AA040C	教育分野に関する理論と支援の展開（教育心理学特論）	今田　雄三,吉井　健治,小倉　正義
6	心理臨床	M1AA050C	司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開（犯罪心理学特論）	黒澤　良輔
7	心理臨床	M1AA070C	臨床心理学研究Ⅰ	久米　禎子
8	心理臨床	M1AA110C	グループアプローチ論	木村　昌紀
9	心理臨床	M1AA120E	臨床心理学研究法特論	葛西　真記子,粟飯原　良造,今田　雄三,吉井　健治,小倉　正義,久米　禎子,川西　智也,古川　洋和
10	心理臨床	M1AA160C	保健医療分野に関する理論と支援の展開（精神医学特論）	今田　雄三,古川　洋和
11	心理臨床	M1AA180C	心理的アセスメントに関する理論と実践（臨床心理査定演習Ⅰ）	吉井　健治,粟飯原　良造,今田　雄三,久米　禎子,川西　智也,小倉　正義
12	心理臨床	M1AA190C	心理支援に関する理論と実践	久米　禎子,葛西　真記子,古川　洋和
13	心理臨床	M1AA200C	家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践（家族心理学特論）	粟飯原　良造,川西　智也
14	心理臨床	M1BA010C	心の発達・教育創造研究	山崎　勝之
15	心理臨床	M1BA030C	心理教育科学研究	内田　香奈子
16	心理臨床	M1CA010C	臨床人間関係(知的障害・肢体不自由・病弱・視覚障害・聴覚障害)	高橋　眞琴
17	心理臨床	M1CA020C	生理心理学	田中　淳一
18	心理臨床	M1CA050C	障害発達支援国際比較研究	田中　淳一,高橋　眞琴
19	現代教育課題総合	M1DA030C	現代の子どもと学校教育	谷村　千絵
20	現代教育課題総合	M1DA050C	コミュニケーションと環境	金野　誠志,谷村　千絵
21	現代教育課題総合	M1DA060C	環境と文化	田村　和之
22	現代教育課題総合	M1DA140C	自然科学の世界：進化生物学をモデルとして	工藤　慎一
23	グローバル教育	M1FA020E	教育研究・調査	石坂　広樹,小澤　大成
24	グローバル教育	M1FA050C	国際教育協力研究	石坂　広樹,石村　雅雄
25	グローバル教育	M1FA070C	国際教育協力特論Ⅱ	小澤　大成,石村　雅雄
26	グローバル教育	M1FA080C	国際教育授業開発	小澤　大成,石坂　広樹,近森　憲助
27	グローバル教育	M1FA090E	国際教育協力演習	石坂　広樹,小澤　大成
28	グローバル教育	M1HA010C	日本語文法研究	田中　大輝
29	グローバル教育	M1HA020C	日本語音声表現研究	田中　大輝
30	グローバル教育	M1HA040C	社会言語学研究	永田　良太
31	グローバル教育	M1HA050C	言語習得･発達論	田中　大輝
32	グローバル教育	M1HA060C	日本語教育学研究	廣田　知子

頁数	科目区分	科目コード	科目名	担当教員名
33	グローバル教育	M1HA070C	日本語教育法研究（日本語教育観察実習）	廣田　知子
34	グローバル教育	M1HA110C	日本文化研究	廣田　知子
35	グローバル教育	M1HA120C	日本語Ⅰ	田中　大輝
36	グローバル教育	M1HA130C	日本語Ⅱ	廣田　知子
37	グローバル教育	M1IA010C	異文化コミュニケーション研究	眞野　美穂

結果報告書

授業科目名　子どものこころへのアプローチ
評価実施日　令和1年7月24日
担当教員名　小倉　正義,吉井　健治,田中　淳一,山崎　勝之,内田　香奈子,高橋　眞琴　　回答者数　74　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	36	24	12	2			4.3
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	36	27	9	2			4.3
	(3)各コース・領域・分野の目指す人材の育成につながる内容であった。	37	25	9	3			4.3
	(4)授業では，ｼﾗﾊﾞｽに示されたｱｸﾃｨﾌﾞ・ﾗｰﾆﾝｸﾞが，実施されていた。	24	25	19	6			3.9
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は，適切であった。	25	32	14	3			4.1
	(6)授業の進む速さは，適切であった。	30	30	12	2			4.2
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	30	24	16	4			4.1
	(8)教科書や配布された資料は，適切であった。	28	28	15	3			4.1
	(9)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	29	28	15	2			4.1
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	28	28	16	2			4.1
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	31	26	13	3			4.2



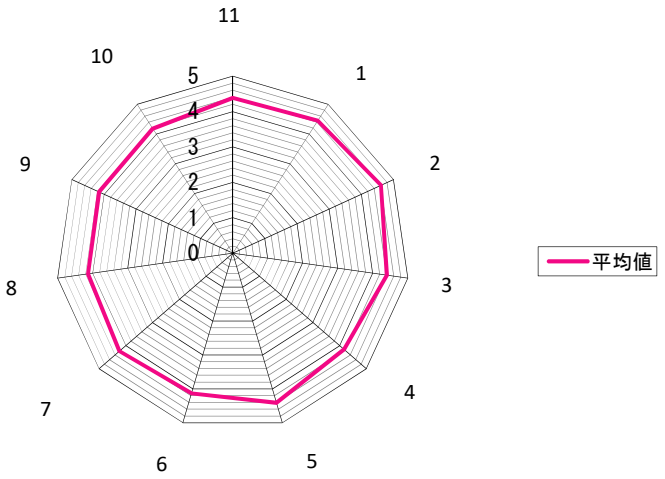
教員のコメント

授業の内容に関する項目(1)～(3)の各平均値は全て4.3.で高かった。しかし、「(4)授業では，ｼﾗﾊﾞｽに示されたｱｸﾃｨﾌﾞ・ﾗｰﾆﾝｸﾞが，実施されていた。」は3.9で比較的低かった。自由記述では、「たくさんの教員がそれぞれの分野、視点から子どもの心理面や影響について講義され、多面的な捉え方ができる授業だと思いました」など好評だった。その一方で、「この授業の担当の先生が多くて、授業の内容のつながりが分かりにくかった」、「全体の統一性を出すためのまとめの授業があるとよい」という意見もあった。次に、教員の授業の進め方に関する項目(5)～(9)の平均値の範囲は4.1～4.2だった。最後に、「(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ」の平均値は4.1だった。自由記述では、「興味をもって講義を受けることができた」、「グループワークに積極的に取り組んだ」、「レポート課題に積極的に取り組んだ」などが書かれていた。

結果報告書

授業科目名　福祉分野に関する理論と支援の展開（障害者（児）心理学特論）
評価実施日　令和1年7月24日
担当教員名　小倉　正義,川西　智也,田中　淳一,高橋　眞琴　　回答者数　39　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	（1）授業概要は，この授業を適切に表現していた。	21	13	4			1	4.4
	（2）専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	25	11	2			1	4.6
	（3）各コース・領域・分野の目指す人材の育成につながる内容であった。	22	9	5	1		1	4.4
	（4）授業では，ｼﾗﾊﾞｽに示されたｱｸﾃｨﾌﾞ・ﾗｰﾆﾝｸﾞが，実施されていた。	16	11	10			2	4.2
教員の授業の進め方について	（5）成績評価の方法の説明は，適切であった。	23	11	3	2			4.4
	（6）授業の進む速さは，適切であった。	17	12	6	3		1	4.1
	（7）受講生に分かりやすく説明した。	18	12	7	1		1	4.2
	（8）教科書や配布された資料は，適切であった。	18	11	5	4		1	4.1
	（9）板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	16	13	8	1		1	4.2
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	16	16	5	2			4.2
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	18	19	1	1			4.4



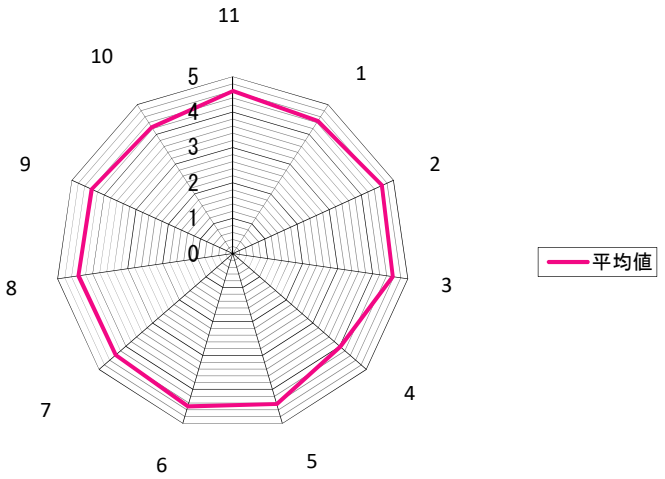
教員のコメント

本授業は開講されて2年目であるが，本年度から2名新たに教員を加えて内容にさらに厚みのあるものになったと考えている。実践を行うベースとなる福祉分野に関する様々な知識の定着もベースに，福祉とは何かを考える力，そして実践力へとつなげてもらえることを意識して授業を行ってきた。
アンケート結果はおおむね良好であるが，特に教員の授業の進め方については結果にばらつきもみられることから，より一人一人の学生のニーズに応じた工夫をする必要があると感じた。4名の担当教員で今年度の振り返りを行い，話し合う中で，より行業の目的を達成するための工夫していきたい。

結果報告書

授業科目名　教育分野に関する理論と支援の展開（教育心理学特論）
評価実施日　令和1年7月29日
担当教員名　今田　雄三,吉井　健治,小倉　正義　　回答者数　42　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	（1）授業概要は，この授業を適切に表現していた。	26	10	5	1			4.5
	（2）専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	29	11	2				4.6
	（3）各コース・領域・分野の目指す人材の育成につながる内容であった。	27	12	3				4.6
	（4）授業では，ｼﾗﾊﾞｽに示されたｱｸﾃｨﾌﾞ・ﾗｰﾆﾝｸﾞが，実施されていた。	18	11	10	2	1		4.0
教員の授業の進め方について	（5）成績評価の方法の説明は，適切であった。	25	13	2	1	1		4.4
	（6）授業の進む速さは，適切であった。	24	15	3				4.5
	（7）受講生に分かりやすく説明した。	24	10	8				4.4
	（8）教科書や配布された資料は，適切であった。	25	12	2	3			4.4
	（9）板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	22	15	4	1			4.4
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	17	20	3	2			4.2
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	28	11	3				4.6



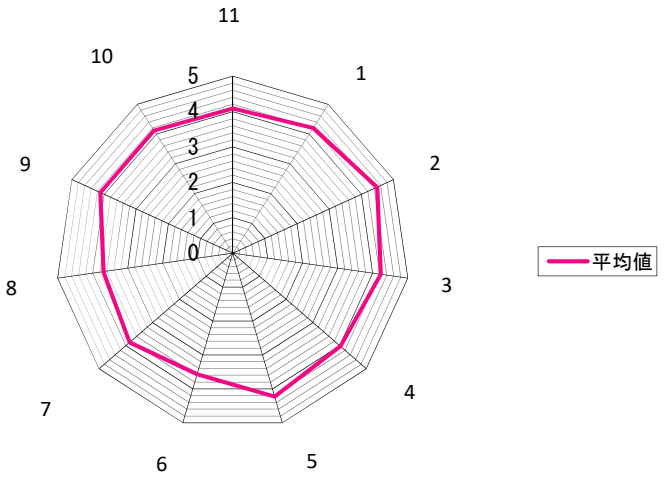
教員のコメント

(1)～(11)の各項目ごとの評価の平均値は11項目全てで4.0点以上であり、(11)「授業に主体的・積極的に取り組んだ」では4.6点の評価を得ており、本授業は受講生から高い評価を得たものと考える。自由記述[2]の、この授業のよかった点として、「教育現場での実践と結びついた内容であり、興味深く学べた」「説明がわかりやすかった」という意見が多かった。自由記述[3]の、この授業の改善点としては、「特にない」という意見が多かったが、少数だが「内容が多い」という意見などもみられた。自由記述[4]の、授業への主体的・積極的な取り組みとしては、授業内でのグループワークに積極的したという記述が多かったが、一部に「眠くなってしまった」という記述もみられた。今後は、自由記述の一部でみられた、必ずしも学習意欲が高くない受講生にも、学習内容の量に圧倒されず、興味を持った授業を実施するための工夫をしていきたい。

結果報告書

授業科目名　司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開（犯罪心理学特論）
評価実施日　令和1年9月20日
担当教員名　黒澤　良輔　　回答者数　35　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	（1）授業概要は，この授業を適切に表現していた。	16	14	2	2	1		4.2
	（2）専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	21	11	2	1			4.5
	（3）各コース・領域・分野の目指す人材の育成につながる内容であった。	19	9	3	4			4.2
	（4）授業では，ｼﾗﾊﾞｽに示されたｱｸﾃｨﾌﾞ・ﾗｰﾆﾝｸﾞが，実施されていた。	14	12	6	2	1		4.0
教員の授業の進め方について	（5）成績評価の方法の説明は，適切であった。	15	14	5	1			4.2
	（6）授業の進む速さは，適切であった。	10	9	10	3	3		3.6
	（7）受講生に分かりやすく説明した。	12	13	4	5	1		3.9
	（8）教科書や配布された資料は，適切であった。	10	12	5	8			3.7
	（9）板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	15	11	7	2			4.1
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	13	16	3	3			4.1
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	16	12	3	2	2		4.1



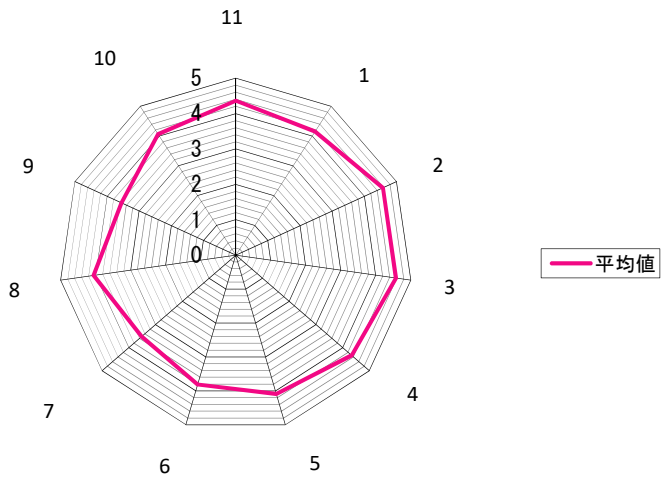
教員のコメント

・昨年の経験を踏まえて，授業内容を選別し削減したが，それでもまだ内容が多すぎて，授業進行が早くなりすぎた。そのために，学生が充分理解できるまで，説明できなかった点もあったようだ。また，レジュメ作成後も，授業進行予定を検討し続けたため，レジュメ内容と授業内容が対応していない印象を与えたかもしれない。来年度は，内容を更に厳選し，資料や時間も増やして，レジュメに即して丁寧に説明するようにしたい。
・現場経験を踏まえて，実際に現場で直面する課題を取り上げたことは，一般的な教科書にはあまり記載されていない専門的知識と受けとめられたのではないか。
・昨年度は，教師の実践力に結び付かないという意見があり，鳴門教育大学が教員養成に力を入れていることを理解し，今年度は，なるべく学校教員の実践力に関連するよう配慮したので，来年度も更に工夫したい。
・アクティブラーニングについても，なかなか予定したとおりに進めることができなかったので，来年度は学生自身が討議する課題や時間を増やすなど，更に工夫を重ねたい。

結果報告書

授業科目名　臨床心理学研究Ⅰ
評価実施日　令和1年7月18日
担当教員名　久米　禎子　　回答者数　33　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	14	14	2	2	1		4.2
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	21	10	2				4.6
	(3)各コース・領域・分野の目指す人材の育成につながる内容であった。	22	9	1	1			4.6
	(4)授業では，ｼﾗﾊﾞｽに示されたｱｸﾃｨﾌﾞ・ﾗｰﾆﾝｸﾞが，実施されていた。	17	10	6				4.3
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は，適切であった。	14	11	6	1	1		4.1
	(6)授業の進む速さは，適切であった。	8	13	8	3		1	3.8
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	4	15	9	4	1		3.5
	(8)教科書や配布された資料は，適切であった。	15	9	5	4			4.1
	(9)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	6	12	10	4	1		3.5
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	14	12	3	3	1		4.1
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	18	11	2	2			4.4



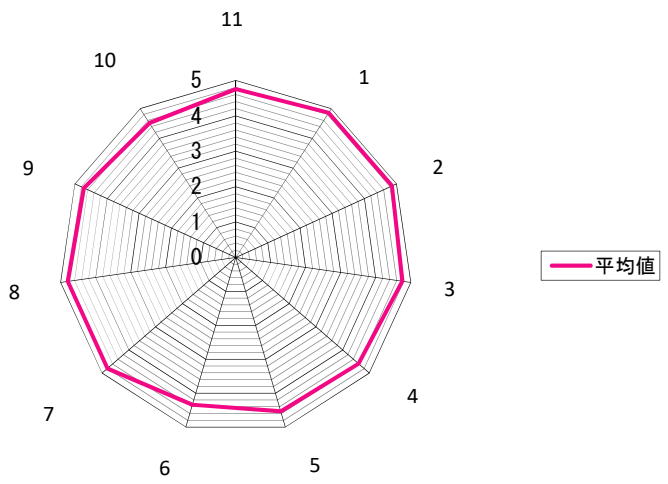
教員のコメント

心理臨床の専門的な内容を扱う授業であるため，理解度や関心によって受講態度や受け止め方が二極化している印象である。抽象的な理解が難しい学生もいるので，できるだけ扱う内容をしぼり，スライドの内容や進むスピード等を改善することで内容の理解を進めるとともに，関心のある学生にはさらに考えを深めていくことができるよう工夫していきたい。

結果報告書

授業科目名　グループアプローチ論
評価実施日　令和1年9月6日
担当教員名　木村　昌紀　　回答者数　29　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	25	4					4.9
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	27	1		1			4.9
	(3)各コース・領域・分野の目指す人材の育成につながる内容であった。	23	5	1				4.8
	(4)授業では，ｼﾗﾊﾞｽに示されたｱｸﾃｨﾌﾞ・ﾗｰﾆﾝｸﾞが，実施されていた。	19	8	2				4.6
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は，適切であった。	20	5	2		1	1	4.5
	(6)授業の進む速さは，適切であった。	16	9	2	2			4.3
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	24	4	1				4.8
	(8)教科書や配布された資料は，適切であった。	24	4	1				4.8
	(9)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	21	8					4.7
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	17	10	2				4.5
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	24	3	2				4.8



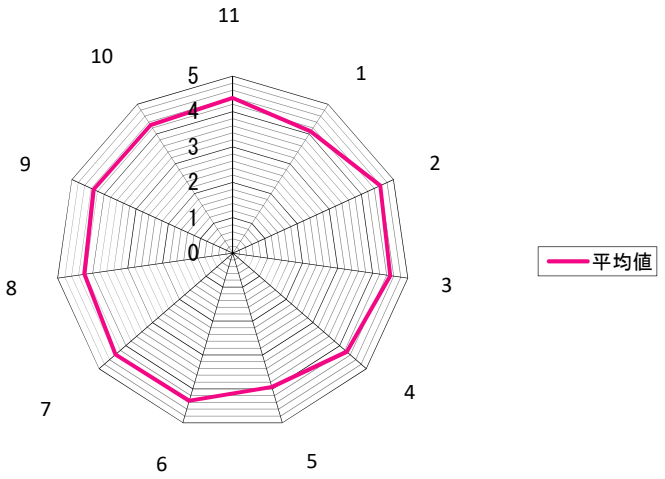
教員のコメント

本年度の集中講義「グループアプローチ論」を担当させていただきました、木村昌紀です。貴重な機会をいただき、ありがとうございました。鳴門教育大学での講義は4年目で、この「グループアプローチ論」になって初めての講義でした。これまでのアンケートでいただいた意見をもとに、体験型の課題や受講生同士の関わり、ビデオ教材の使用などを増やすことを心がけました。この点について、受講生の皆さんから評価いただけたように感じています。また、より専門的な話を聞きたいとの意見をいただいたこともあり、最近取り組んでいる研究や最新の知見も紹介させていただきました。今回3日間の講義の中で、後半に喉の調子が悪くなり声が聞き取りにくかったと思います。体調管理も課題だと感じています。至らない点もたくさんあったと思いますが、良い評価をしてくださり、どうもありがとうございました。たくさんの受講生の皆さんから、講義内容に興味をもっていただけたこと、スライドや配布資料がわかりやすかったとご意見をいただけて嬉しく感じています。講義内容に関しては、社会心理学の中で、特にコミュニケーションと対人関係について、基礎的かつ重要な内容を中心に、できるだけ幅広く、相互の関連性を意識しながら講義を心がけています。加えて、特定の分野での踏み込んだ話や、最新の知見の紹介もビデオ教材なども使いながら可能な範囲で行うようにしました。一方で、いろいろ盛り込んだ分、情報量が多くなり過ぎてしまいました。初めて社会心理学を学ぶ方には情報が多すぎて消化不良にさせてしまったかもしれません。内容を充実させながら、情報を厳選して最適量を探っていきたいと思います。この反省点は、これからの講義に活かしていこうと考えています。熱心な受講生ばかりで授業もしやすく、いただいた質問やコメントで大変勉強になりました。教育現場におられる方やカウンセラーを目指す方が多いこともあり、とてもあたたかいコメントをたくさんくださり、励みになりました。3日間気持ちよく授業させていただきました。ありがとうございました。

結果報告書

授業科目名　臨床心理学研究法特論
評価実施日　令和1年7月29日
担当教員名　葛西　真記子,栗飯原　良造,今田　雄三,吉井　健治,小倉　正義,久米　禎子,川西　智也,古川　洋和　　回答者数　34　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	16	11	2	4	1		4.1
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	22	10	2				4.6
	(3)各コース・領域・分野の目指す人材の育成につながる内容であった。	22	8	3	1			4.5
	(4)授業では，ｼﾗﾊﾞｽに示されたｱｸﾃｨﾌﾞ・ﾗｰﾆﾝｸﾞが，実施されていた。	15	14	4	1			4.3
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は，適切であった。	16	8	4	4	2		3.9
	(6)授業の進む速さは，適切であった。	19	9	5	1			4.4
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	20	8	5	1			4.4
	(8)教科書や配布された資料は，適切であった。	15	14	3	2			4.2
	(9)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	18	10	5	1			4.3
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	15	15	3	1			4.3
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	19	9	6				4.4



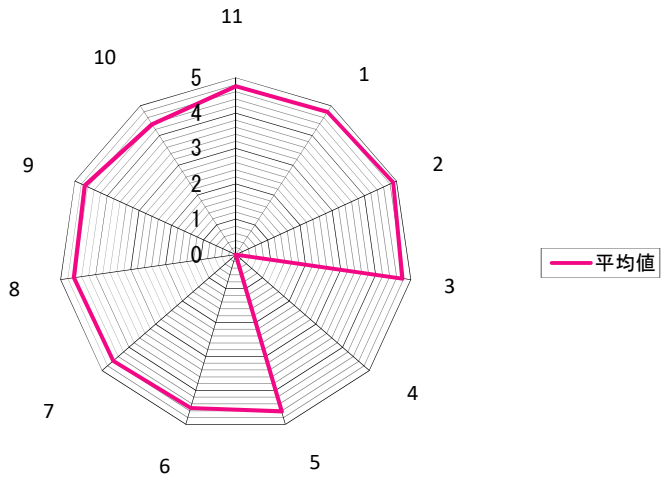
教員のコメント

本講義は修士課程に入学直後に臨床心理学における研究法に関する内容であり、担当の教員による専門的な研究についての知見を学ぶ。また研究の倫理についても触れる講義であった。その中で、ほとんどの学生は、「専門的な知識を深めることができた」と感じており、内容としては、カウンセラー等の心理職を目指す学生を対象としているが、同時に、教育の現場で活かせる研究法についても言及していることから、「教師の実践力の育成に役立つ」と評価されたのだと思われる。全体的に高評価であったが、その中で低かった項目が、「成績の評価の方法が適切であった」というものであった。3名の教員による評価について試験を行うということをシラバスにも明記したいたが、それぞれの教員の問題の難しさ、判定基準等について説明が足りなかったのか、適切ではなかったのではないと感じている学生がたということであるので、来年度は、評価の方法について教員間の認識の統一をはかり、それを学生に伝達するように心がけたい。

結果報告書

授業科目名　保健医療分野に関する理論と支援の展開(精神医学特論)
評価実施日　令和1年7月22日
担当教員名　今田　雄三,古川　洋和　　回答者数　29　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	23	6					4.8
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	26	3					4.9
	(3)各コース・領域・分野の目指す人材の育成につながる内容であった。	23	5	1				4.8
	(4)授業では，ｼﾗﾊﾞｽに示されたｱｸﾃｨﾌﾞ・ﾗｰﾆﾝｸﾞが，実施されていた。	－	－	－	－	－	－	－
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は，適切であった。	20	7	2				4.6
	(6)授業の進む速さは，適切であった。	21	4	2	2			4.5
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	20	6	3				4.6
	(8)教科書や配布された資料は，適切であった。	20	7	2				4.6
	(9)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	21	7	1				4.7
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	13	15		1			4.4
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	22	7					4.8



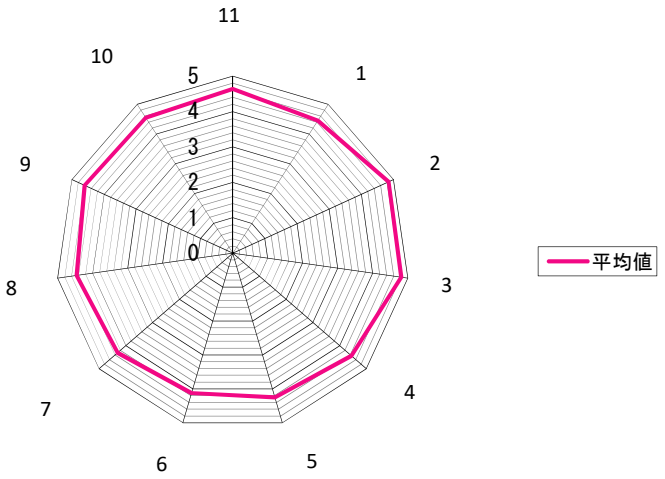
教員のコメント

質問10項目中9項目で評価の平均値が4.5点以上であり、総合評価(11)「この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。」では4.8点と評価されており、本授業は総合的には受講生からは高い評価を得られたものと考える。また、「(3)教師の実践力の育成につながる内容であった」に関する評価の平均値については昨年度の3.7点から4.8点と上昇していた。ただし受講者の自由記述には(3)の項目に関連する記述は含まれておらず、この項目に関し具体的な内容を検討することはできなかった。自由記述において、本授業のよかった点として「精神医学について詳しく学ぶことが出来た」「資料や説明がわかりやすかった」「質問に回答してもらえた」点を評価する者が多かった。授業の改善点として、「分量が多すぎる」ことを挙げている者が多かった。本授業は公認心理師取得のための必修科目であるが、受講生の大半が過去に精神医学を学んだ経験がなく、これも必修である医療機関での実習に備え、相当量の知識の習得を図る必要がある。よって基本的に教える知識量そのものを減らすことは出来ないが、今後はいかに「難しいことをわかりやすく説明する」か、更に工夫を行いたい。なお本授業ではアクティブラーニングを実施していないため、質問(4)の項目はアンケートから外している。上述したように、本授業が担っている役割を適切に果たすべく、アクティブラーニングの実施の有無にこだわるのではなく、受講生が基本的知識をきちんと習得することを主眼においた授業を展開しつつ、授業終了時にリアクションペーパーを提出してもらい、後日LiveCampus上で質問に回答する等の対応を継続することで学習効果を高める取り組みを継続したい。

結果報告書

授業科目名　心理的アセスメントに関する理論と実践（臨床心理査定演習Ⅰ）
評価実施日　令和1年7月26日
担当教員名　吉井　健治,粟飯原　良造,今田　雄三,久米　禎子,川西　智也,小倉　正義　　回答者数　33　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	（1）授業概要は，この授業を適切に表現していた。	20	9	3	1			4.5
	（2）専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	28	5					4.8
	（3）各コース・領域・分野の目指す人材の育成につながる内容であった。	26	6				1	4.8
	（4）授業では，ｼﾗﾊﾞｽに示されたｱｸﾃｨﾌﾞ・ﾗｰﾆﾝｸﾞが，実施されていた。	20	8	3		1	1	4.4
教員の授業の進め方について	（5）成績評価の方法の説明は，適切であった。	18	8	4		2	1	4.3
	（6）授業の進む速さは，適切であった。	16	8	6	3			4.1
	（7）受講生に分かりやすく説明した。	18	10	2	3			4.3
	（8）教科書や配布された資料は，適切であった。	19	11	2	1			4.5
	（9）板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	22	9	2				4.6
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	20	11	2				4.5
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	23	8	2				4.6



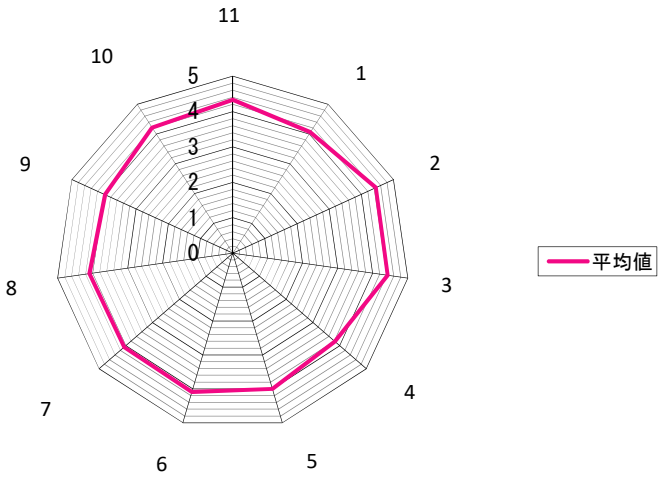
教員のコメント

授業の内容に関する項目(1)～(4)の平均値の範囲は4.4～4.8と非常に高かった。とくに専門的知識を深めたり実践力を育成することで高い評価が得られた。これは、自由記述に書かれていたように、様々な心理検査を実践的に学習することができたからだといえよう。次に、教員の授業の進め方に関する項目(5)～(9)の平均値の範囲は4.1～4.6で高かった。自由記述では、「具体的な例があってわかりやすかった」、「丁寧に詳しく説明してもらえた」といった感想が多くあった。しかし、「授業の展開が早すぎてついていくのが大変だった」という感想に示されるように、「(6)授業の進む早さは適切であった」の平均値が4.1と一番低かった。これについては、臨床心理士・公認心理師養成に必要とされる学習内容はたくさんあるので仕方ない面はあるのだが、今後は授業の進む早さについて配慮していくことが必要である。最後に、「(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ」の平均値は4.5と高かった。自由記述では、「ディスカッション、活動、課題において自分なりに主体的に取り組んだ」、「前もって調べたり、参考文献を読んだ」などが書かれていた。

結果報告書

授業科目名　心理支援に関する理論と実践
評価実施日　令和1年7月29日
担当教員名　久米　禎子,葛西　真記子,古川　洋和　　回答者数　33　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	13	13	3	4			4.1
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	17	14	2				4.5
	(3)各コース・領域・分野の目指す人材の育成につながる内容であった。	19	10	3	1			4.4
	(4)授業では，ｼﾗﾊﾞｽに示されたｱｸﾃｨﾌﾞ・ﾗｰﾆﾝｸﾞが，実施されていた。	9	12	10	1	1		3.8
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は，適切であった。	11	15	4	2	1		4.0
	(6)授業の進む速さは，適切であった。	11	16	4	2			4.1
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	13	11	7	2			4.1
	(8)教科書や配布された資料は，適切であった。	15	9	7	1	1		4.1
	(9)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	12	10	10		1		4.0
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	10	21	1	1			4.2
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	17	10	6				4.3



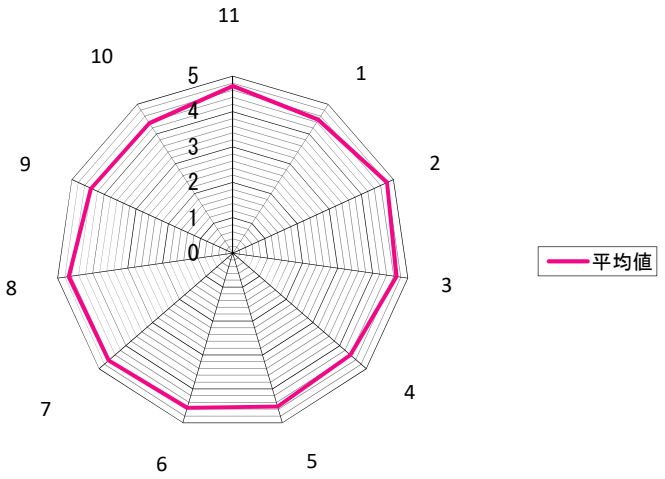
教員のコメント

3名の教員で分担している授業であり，1名分の担当回が少ないため，扱うことのできるテーマや深さに制約があるが，入門的な役割を担っている授業であり，幅広くさまざまな理論を学ぶことができる点が受講生にも評価されているため，現在のやり方は妥当なものであると考えられる。授業の一部にディスカッションを取り入れているが，学生によって参加意欲や態度にばらつきがあるので，そうした点を考慮し，改善していきたい。

結果報告書

授業科目名　家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践（家族心理学特論）
評価実施日　令和1年7月19日
担当教員名　粟飯原　良造,川西　智也　　回答者数　25　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	（1）授業概要は，この授業を適切に表現していた。	15	8	1	1			4.5
	（2）専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	21	3	1				4.8
	（3）各コース・領域・分野の目指す人材の育成につながる内容であった。	18	6	1				4.7
	（4）授業では，ｼﾗﾊﾞｽに示されたｱｸﾃｨﾌﾞ・ﾗｰﾆﾝｸﾞが，実施されていた。	14	7	4				4.4
教員の授業の進め方について	（5）成績評価の方法の説明は，適切であった。	15	8	2				4.5
	（6）授業の進む速さは，適切であった。	19	1	5				4.6
	（7）受講生に分かりやすく説明した。	17	7	1				4.6
	（8）教科書や配布された資料は，適切であった。	18	6	1				4.7
	（9）板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	15	6	3	1			4.4
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	12	10	3				4.4
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	20	3	2				4.7



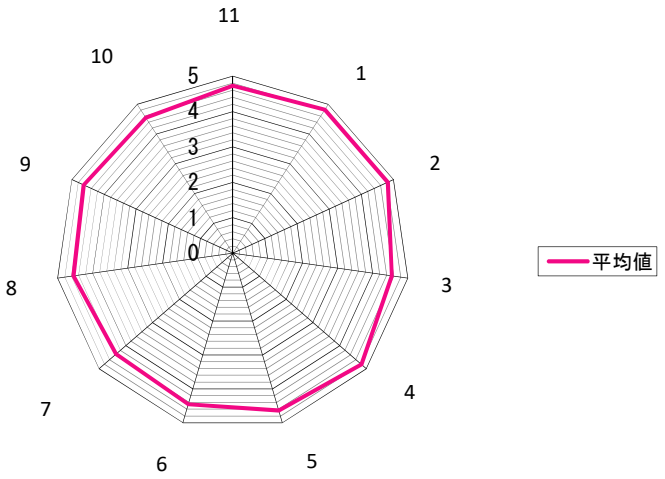
教員のコメント

授業内容に関する質問項目については、4.4～4.8で、教員の授業の進め方に関する質問項目については、4.4～4.7で、総合評価は4.7で、シラバスに書かれた授業内容と受講生が求めた知識とは一致していたので受講生が満足したと思われた。講師2人の特徴が出ていて興味が持続したとの記述があり、講師2人体制も肯定的に受講生に受け取られたと思われた。
自由記述では、「わかりやすかった」「グループ学習があり学びにつながった」「いろいろな意見がグループ学習で知ることができた」とグループによる活動が肯定的に受け取られていた。「家族療法が理解できた」「コミュニティアプローチに必要な知識がわかった」と授業内容にも満足している。ただ1名の受講生が「授業内容が多すぎる」との記述があり、講義期間中に小テストをするなどで授業の負担を見るなどの工夫が必要であると思われた。

結果報告書

授業科目名　心の発達・教育創造研究
評価実施日　令和1年7月30日
担当教員名　山崎　勝之　　回答者数　11　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	9	2					4.8
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	9	2					4.8
	(3)各コース・領域・分野の目指す人材の育成につながる内容であった。	6	5					4.5
	(4)授業では，ｼﾗﾊﾞｽに示されたｱｸﾃｨﾌﾞ・ﾗｰﾆﾝｸﾞが，実施されていた。	9	2					4.8
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は，適切であった。	7	4					4.6
	(6)授業の進む速さは，適切であった。	6	4	1				4.5
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	6	3	2				4.4
	(8)教科書や配布された資料は，適切であった。	8	1	2				4.5
	(9)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	8	2	1				4.6
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	6	5					4.5
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	8	3					4.7



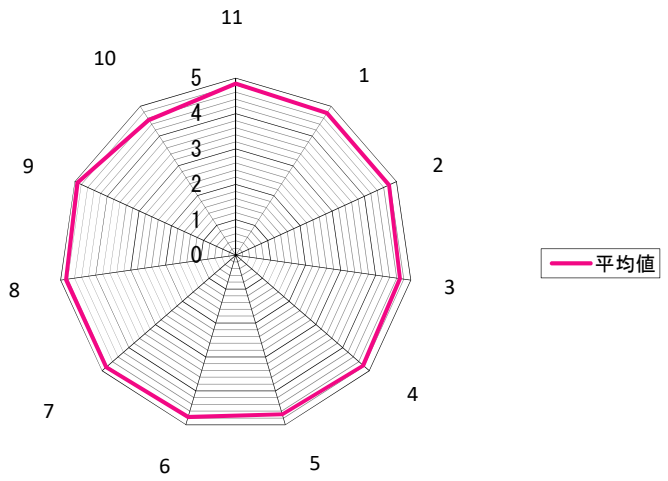
教員のコメント

総合評価を中心に高い評価であったが、ところどころで評価が少し低いところもあった。領域の目指す人材の育成につながる内容であった点や授業に主体的・積極的に取り組んだ点なのである(すべて4点以上であったが)。
領域の目指す人材の育成につながる観点は、心理・教育科学領域以外の学生も受講し、心理・教育科学領域の目指す人材像が明確ではなかったことが推測され、これほどの評価で良かったと判断される。この授業に関連して言えば、心理・科学領域では、基礎理論面から応用実践力の円滑な往還力を持つ人材をの育成を目指している。
主体的体的・積極的に取り組む姿勢で全員が5でなかった点は考慮する必要がある。授業でもっとも重要なことは、動因強く積極的に取り組むことであり、この点は動機づけを中心とした側面からの授業運営の改良を行う必要がある。

結果報告書

授業科目名　心理教育科学研究
評価実施日　令和1年7月29日
担当教員名　内田　香奈子　　回答者数　13　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	10	3					4.8
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	10	3					4.8
	(3)各コース・領域・分野の目指す人材の育成につながる内容であった。	10	2	1				4.7
	(4)授業では，ｼﾗﾊﾞｽに示されたｱｸﾃｨﾌﾞ・ﾗｰﾆﾝｸﾞが，実施されていた。	10	3					4.8
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は，適切であった。	9	4					4.7
	(6)授業の進む速さは，適切であった。	10	3					4.8
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	11	2					4.8
	(8)教科書や配布された資料は，適切であった。	11	2					4.8
	(9)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	12	1					4.9
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	7	6					4.5
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	11	2					4.8



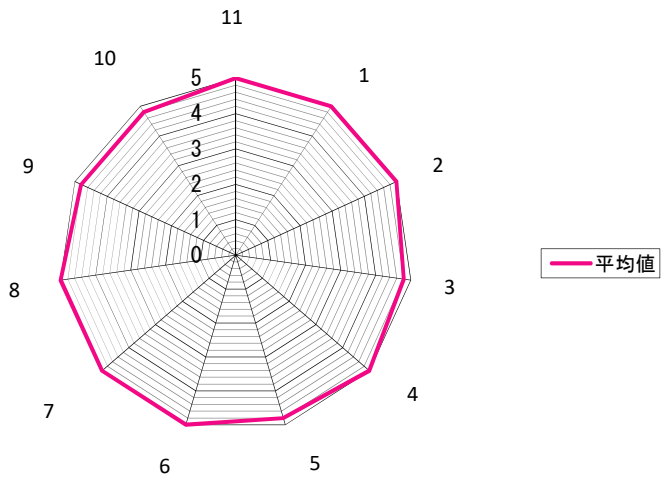
教員のコメント

本授業は、旧課程で開講されていた予防教育科学の授業から、内容をより充実させる形で開講された新しい講義である。領域として、より専門性の高い内容を提供するため、心理学の基礎研究に関する知見を分かりやすく提供するように心がけた。また、現場での実践内容については、より詳しい解説を加えながら、教員が小中学校の教師役を、受講生が児童・生徒役となり、授業を体験してもらう形を取った。その結果、総合評価は4.8となり、高い数値を得ることができた。コメントも総じて肯定的なフィードバックであったが、人によっては難しい内容かもしれないとの意見があった。領域用に専門性を高めたが、他分野・領域からの受講生もいたため、このようなコメントがあったように感じる。今後も内容をブラッシュアップしたい。

結果報告書

授業科目名　臨床人間関係(知的障害・肢体不自由・病弱・視覚障害・聴覚障害)
評価実施日　令和1年7月23日
担当教員名　高橋　眞琴　　回答者数　5　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	5						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	5						5.0
	(3)各コース・領域・分野の目指す人材の育成につながる内容であった。	4	1					4.8
	(4)授業では，ｼﾗﾊﾞｽに示されたｱｸﾃｨﾌﾞ・ﾗｰﾆﾝｸﾞが，実施されていた。	5						5.0
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は，適切であった。	4	1					4.8
	(6)授業の進む速さは，適切であった。	5						5.0
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	5						5.0
	(8)教科書や配布された資料は，適切であった。	5						5.0
	(9)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	4	1					4.8
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4	1					4.8
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	5						5.0



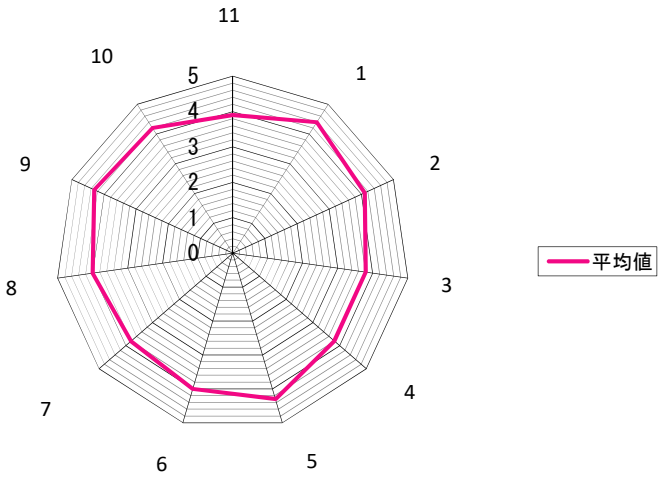
教員のコメント

受講生は，国家資格のある専門職，公立学校教諭経験者，留学生であったが，概ね満足できる結果であったと推察できる。今後も当該授業科目の最新の情報収集に努めていきたい。

結果報告書

授業科目名　生理心理学
評価実施日　令和1年7月26日
担当教員名　田中　淳一　　回答者数　10　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	5	4	1				4.4
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	4	3	3				4.1
	(3)各コース・領域・分野の目指す人材の育成につながる内容であった。	2	5	2	1			3.8
	(4)授業では，ｼﾗﾊﾞｽに示されたｱｸﾃｨﾌﾞ・ﾗｰﾆﾝｸﾞが，実施されていた。	3	3	3	1			3.8
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は，適切であった。	5	3	2				4.3
	(6)授業の進む速さは，適切であった。	3	5	1	1			4.0
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	2	6		2			3.8
	(8)教科書や配布された資料は，適切であった。	3	4	3				4.0
	(9)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	4	5	1				4.3
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4	4	2				4.2
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	3	4	2	1			3.9



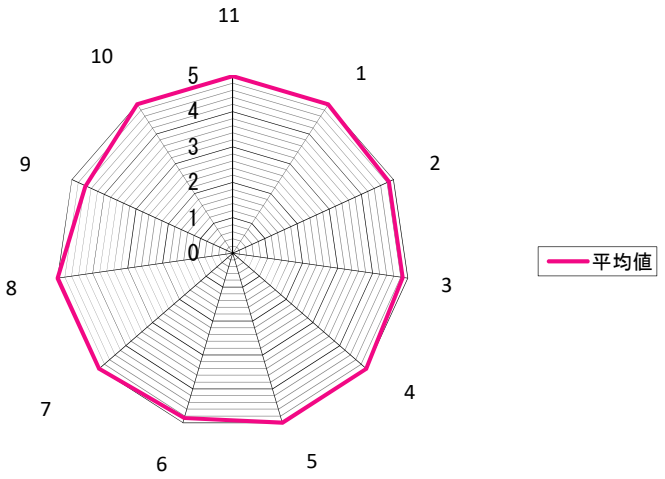
教員のコメント

本授業は旧カリ「発達障害児病理・病態生理学研究」の読み替え授業である。授業は共通性の高い内容を選択して行なったが、新しい科目の特性を強く出しすぎたためか、旧カリの内容としては期待にそえなかった点も多かったように思われる。特に、心理学的や生理学的といった基礎的知見に重点をおいた授業であったことが原因と推察される。また、各項目ともに今後改善すべきこのあることが示された。評価結果より、各項目の評価が同じある傾向が見受けらたことから、本授業に興味が持てた受講生は満足に近いと感じ、あまり興味の持てない受講生はすべての項目で満足していないのであろう。授業内容のみならず、受講生が興味を持てるような授業の展開を指摘されているように思われ、今後の課題である。

結果報告書

授業科目名　障害発達支援国際比較研究
評価実施日　令和1年7月31日
担当教員名　田中　淳一,高橋　眞琴　　回答者数　7　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	7						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	6	1					4.9
	(3)各コース・領域・分野の目指す人材の育成につながる内容であった。	6	1					4.9
	(4)授業では，ｼﾗﾊﾞｽに示されたｱｸﾃｨﾌﾞ・ﾗｰﾆﾝｸﾞが，実施されていた。	7						5.0
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は，適切であった。	7						5.0
	(6)授業の進む速さは，適切であった。	6	1					4.9
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	7						5.0
	(8)教科書や配布された資料は，適切であった。	7						5.0
	(9)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	4	3					4.6
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	7						5.0
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	7						5.0



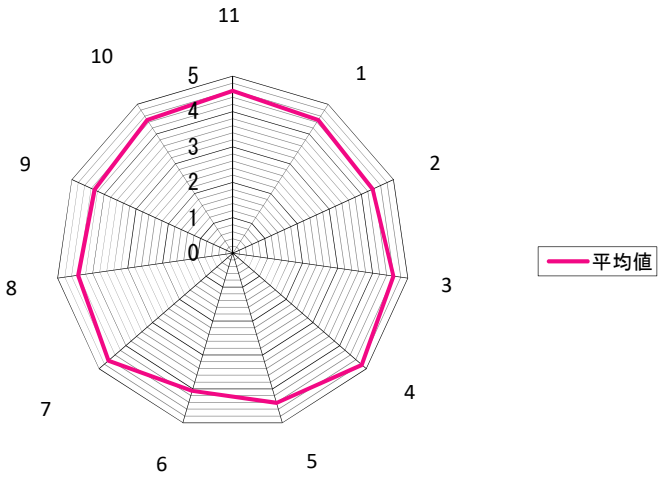
教員のコメント

受講生は，国家資格のある専門職(2名)，公立学校教諭経験者(3名)，留学生(2名)であったが，概ね満足できる結果であったと推察できる。「(9)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。」で4の評価が3名となっているのは，学外関係先での授業が複数回含まれていたため，設定がなかったということが考えられる。次年度も学外関係先での情報収集を行い，当該授業科目の運営に努めていきたい。

結果報告書

授業科目名　現代の子どもと学校教育
評価実施日　令和1年7月29日
担当教員名　谷村　千絵　　回答者数　17　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	10	5	2				4.5
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	8	7	2				4.4
	(3)各コース・領域・分野の目指す人材の育成につながる内容であった。	11	5	1				4.6
	(4)授業では，ｼﾗﾊﾞｽに示されたｱｸﾃｨﾌﾞ・ﾗｰﾆﾝｸﾞが，実施されていた。	15	1	1				4.8
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は，適切であった。	8	8	1				4.4
	(6)授業の進む速さは，適切であった。	5	8	4				4.1
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	12	4	1				4.6
	(8)教科書や配布された資料は，適切であった。	9	6	2				4.4
	(9)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	8	6	3				4.3
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	10	5	2				4.5
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	11	5	1				4.6



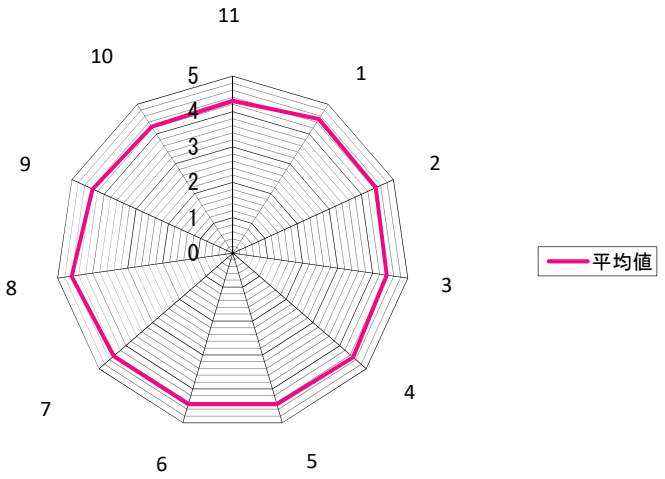
教員のコメント

自由記述欄には、学生同士の意見交換や話し合いの場面が多数あったことから、刺激をたくさん受け、自分なりに考えを広げていくことができたとの感想が多数見られた。授業のスピードについては、「遅い」という意見と「早い」、「ちょうどいい」という意見が分かれていた。もとよりこの授業は、総合だけではなく複数のコースからの受講生が多く、専門、年齢、経歴ともに多様な背景をもつ学生が集まることを特徴としてきたが、今年度は、台湾や中国からの留学生4名が受講していたこともあって、日本語能力や日本の学校教育の基礎的理解にも目配りする必要があった。状況を把握するのに時間がかかり、次回以降の授業について具体的な展望を示すことが難しいこともあったので、今後の課題としたい。また、学生から出た意見をとりあげて授業としてさらに深める機会があってもよかったのではないか、との指摘もあったので、今後の授業に活かしたい。

結果報告書

授業科目名　コミュニケーションと環境
評価実施日　令和1年7月30日
担当教員名　金野　誠志,谷村　千絵　　回答者数　20　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	11	8	1				4.5
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	10	9	1				4.5
	(3)各コース・領域・分野の目指す人材の育成につながる内容であった。	9	10	1				4.4
	(4)授業では，ｼﾗﾊﾞｽに示されたｱｸﾃｨﾌﾞ・ﾗｰﾆﾝｸﾞが，実施されていた。	11	8	1				4.5
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は，適切であった。	10	9	1				4.5
	(6)授業の進む速さは，適切であった。	10	9	1				4.5
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	10	9	1				4.5
	(8)教科書や配布された資料は，適切であった。	13	6	1				4.6
	(9)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	11	6	2	1			4.4
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	7	11	2				4.3
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	7	12	1				4.3



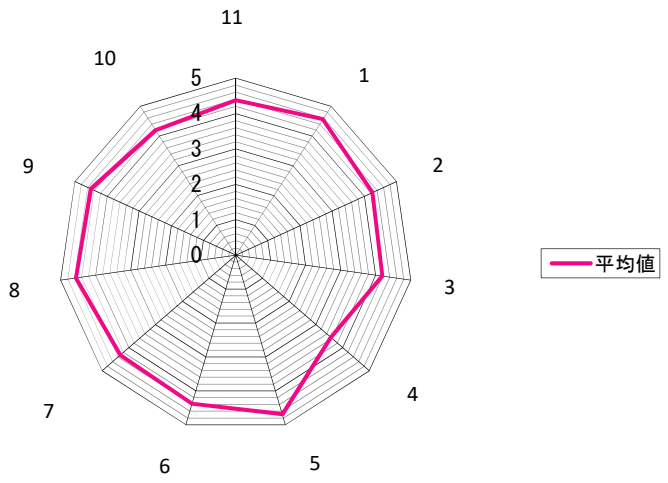
教員のコメント

現職教員、留学生、ストレートマスターが混在し、複数のミースの院生が受講した授業であった。外国の社会科教科書の翻訳やそれに基づいた意見の交流等、現代の諸課題を発見して議論していくような展開を授業を通して行った。特に、文化遺産を社会教育や学校教育の中で扱う場合の留意点の検討などは、興味深く院生も参加していたと考える。ただし、院生のレディネスや言語能力には大きなさがあり、消化不良の院生もいたことは事実である。受け身ではなく率先して自ら調べたり、考えたりする授業では、主体的に前もって予備知識を得たり、関連図書を読んだりする習慣を付けて欲しいと考える。第1回目の授業の際、改めて確認していきたい。

結果報告書

授業科目名　環境と文化
評価実施日　令和1年7月23日
担当教員名　田村　和之　　回答者数　16　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	10	5	1				4.6
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	6	8	2				4.3
	(3)各コース・領域・分野の目指す人材の育成につながる内容であった。	5	9	2				4.2
	(4)授業では，ｼﾗﾊﾞｽに示されたｱｸﾃｨﾌﾞ・ﾗｰﾆﾝｸﾞが，実施されていた。	3	7	3	2	1		3.6
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は，適切であった。	12	3	1				4.7
	(6)授業の進む速さは，適切であった。	8	6	2				4.4
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	7	7	2				4.3
	(8)教科書や配布された資料は，適切であった。	10	5	1				4.6
	(9)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	10	4	2				4.5
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	5	9	2				4.2
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	7	8	1				4.4



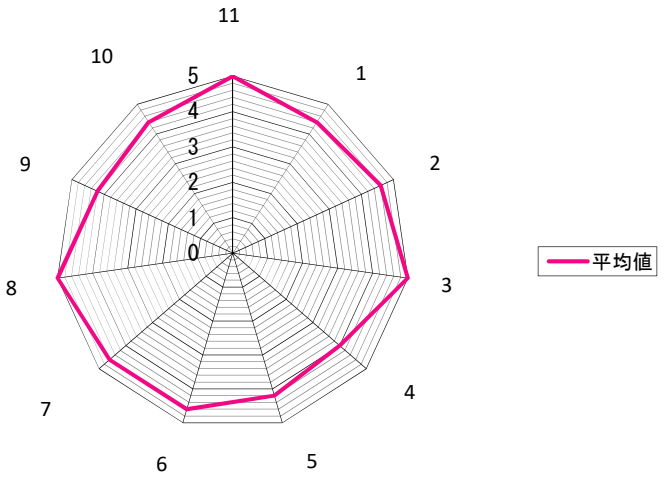
教員のコメント

アンケートの中で、アクティブラーニングの度合い（学生の活動が中心となる授業内容）が少なかった、という意見が散見された。ただし、本授業はそもそも学生が「環境と文化」について何も知らない、ということを前提としており、そのために学生が活動を通して学ぶことよりも、「環境」や環境への「人間の生活の影響」の基礎事実を教えることが目的である。そのため、アクティブラーニングの度合いが少ないというのは最初から予想されていた結果である。
それ以外の項目に関しては基本的にほぼすべての学生が満足しており、今後も同様の授業を続けていきたい。

結果報告書

授業科目名　自然科学の世界：進化生物学をモデルとして
評価実施日　令和1年7月25日
担当教員名　工藤　慎一　　回答者数　5　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	4			1			4.4
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	4		1				4.6
	(3)各コース・領域・分野の目指す人材の育成につながる内容であった。	5						5.0
	(4)授業では，ｼﾗﾊﾞｽに示されたｱｸﾃｨﾌﾞ・ﾗｰﾆﾝｸﾞが，実施されていた。	3		1	1			4.0
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は，適切であった。	3		2				4.2
	(6)授業の進む速さは，適切であった。	4		1				4.6
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	4		1				4.6
	(8)教科書や配布された資料は，適切であった。	5						5.0
	(9)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	3		2				4.2
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4			1			4.4
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	5						5.0



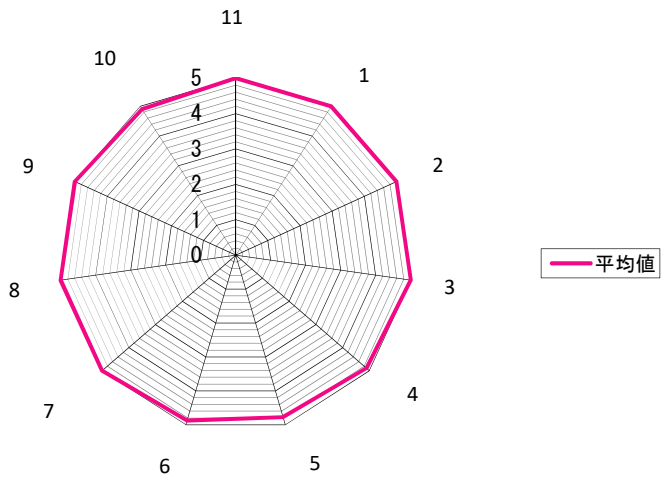
教員のコメント

評価点を見る限り，授業の内容や進め方に特に問題はないと思われる。

結果報告書

授業科目名　教育研究･調査
評価実施日　令和1年7月26日
担当教員名　石坂　広樹,小澤　大成　　回答者数　10　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	10						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	9					1	5.0
	(3)各コース・領域・分野の目指す人材の育成につながる内容であった。	9					1	5.0
	(4)授業では，ｼﾗﾊﾞｽに示されたｱｸﾃｨﾌﾞ･ﾗｰﾆﾝｸﾞが，実施されていた。	8	1				1	4.9
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は，適切であった。	7	2				1	4.8
	(6)授業の進む速さは，適切であった。	7	1				2	4.9
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	8					2	5.0
	(8)教科書や配布された資料は，適切であった。	8					2	5.0
	(9)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	8					2	5.0
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	9	1					4.9
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	10						5.0



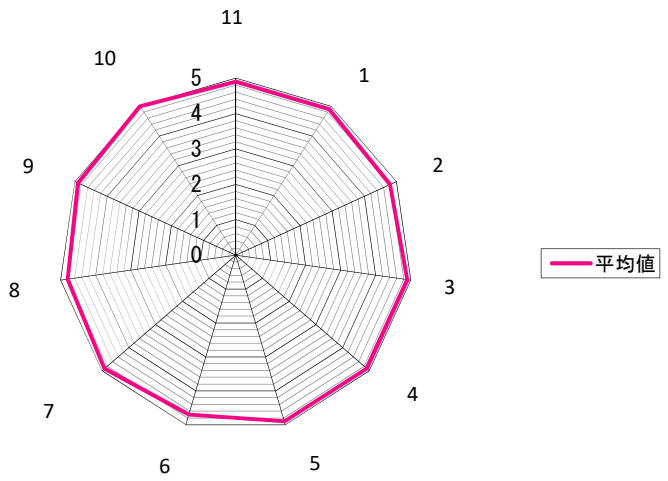
教員のコメント

毎年学生の理解度に合わせて講義内容を臨機応変に修正している。今年度も個別での説明なども行ったところ評価も高かったことと思われる。

結果報告書

授業科目名　国際教育協力研究
評価実施日　令和1年8月20日
担当教員名　石坂　広樹,石村　雅雄　　回答者数　10　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	9	1					4.9
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	8	2					4.8
	(3)各コース・領域・分野の目指す人材の育成につながる内容であった。	9	1					4.9
	(4)授業では，ｼﾗﾊﾞｽに示されたｱｸﾃｨﾌﾞ・ﾗｰﾆﾝｸﾞが，実施されていた。	9	1					4.9
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は，適切であった。	9	1					4.9
	(6)授業の進む速さは，適切であった。	8	1	1				4.7
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	9	1					4.9
	(8)教科書や配布された資料は，適切であった。	8	2					4.8
	(9)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	9	1					4.9
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	10						5.0
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	9	1					4.9



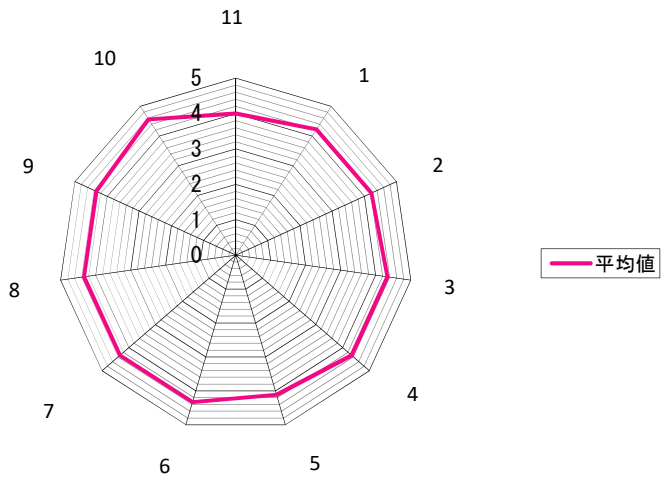
教員のコメント

一部の評価、授業の進度について評価が低いものがあったところ次年度その点について配慮したい。その他の点についてはおおむね授業内容について評価してもらえたものと思われる。

結果報告書

授業科目名　国際教育協力特論Ⅱ
評価実施日　令和1年7月23日
担当教員名　小澤　大成,石村　雅雄　　回答者数　9　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	4	4		1			4.2
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3	5	1				4.2
	(3)各コース・領域・分野の目指す人材の育成につながる内容であった。	4	4	1				4.3
	(4)授業では，ｼﾗﾊﾞｽに示されたｱｸﾃｨﾌﾞ・ﾗｰﾆﾝｸﾞが，実施されていた。	3	6					4.3
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は，適切であった。	3	5		1			4.1
	(6)授業の進む速さは，適切であった。	5	3		1			4.3
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	5	3		1			4.3
	(8)教科書や配布された資料は，適切であった。	5	3		1			4.3
	(9)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	5	3		1			4.3
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	5	4					4.6
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	1	4	1			3	4.0



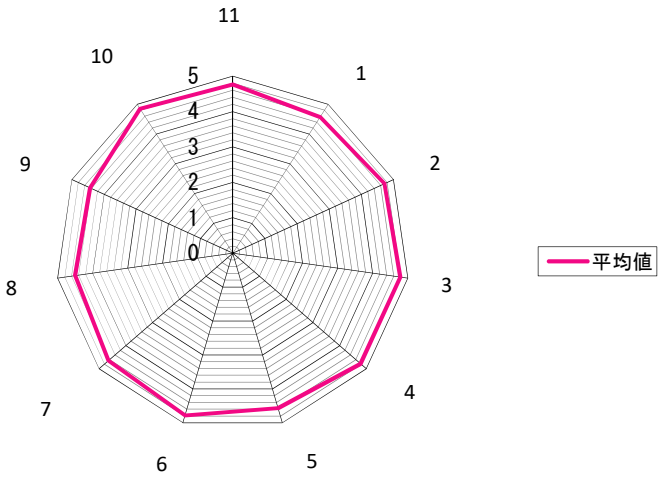
教員のコメント

授業研究を開発途上国の文脈に即して体験的に学ぶことを通じて、途上国での授業改善にとって必要な手法を理解することが目的の講義である。総合評価4.0とまずまずの評価であった。特に授業の進め方について低い評価をつけた受講生がおり，来年度ではその評価を踏まえながら説明を補足する等の改善を予定している。

結果報告書

授業科目名　国際教育授業開発
評価実施日　令和1年7月26日
担当教員名　小澤　大成,石坂　広樹,近森　憲助　　回答者数　14　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	10	3		1			4.6
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	10	4					4.7
	(3)各コース・領域・分野の目指す人材の育成につながる内容であった。	11	3					4.8
	(4)授業では，ｼﾗﾊﾞｽに示されたｱｸﾃｨﾌﾞ・ﾗｰﾆﾝｸﾞが，実施されていた。	11	3					4.8
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は，適切であった。	8	6					4.6
	(6)授業の進む速さは，適切であった。	11	3					4.8
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	10	3	1				4.6
	(8)教科書や配布された資料は，適切であった。	8	5	1				4.5
	(9)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	9	3	1	1			4.4
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	11	2				1	4.8
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	10	3				1	4.8



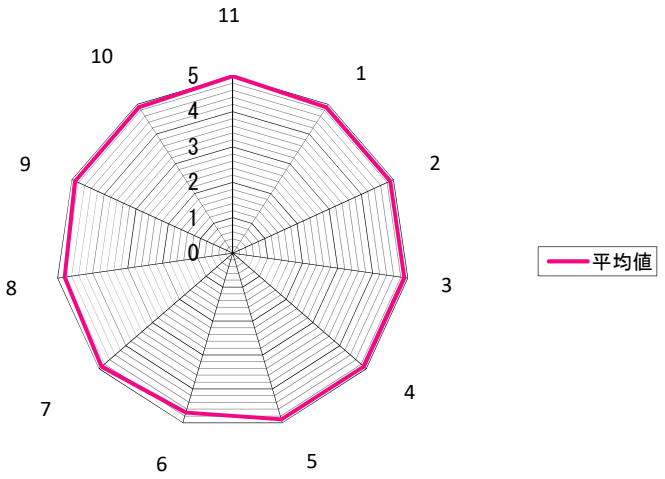
教員のコメント

国際教育協力で必要となる外国語運用能力のうち，英語でのライティング（ディクテーションを含む）・英語での授業実施能力・発表能力を強化することが授業のテーマである。総合評価は4.8と高評価であった。授業の進め方についての指摘がいくつかあり，補足説明を行うなどの改善を実施したい。

結果報告書

授業科目名　国際教育協力演習
評価実施日　令和1年8月27日
担当教員名　石坂　広樹,小澤　大成　　回答者数　10　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	9	1					4.9
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	9	1					4.9
	(3)各コース・領域・分野の目指す人材の育成につながる内容であった。	9	1					4.9
	(4)授業では，ｼﾗﾊﾞｽに示されたｱｸﾃｨﾌﾞ・ﾗｰﾆﾝｸﾞが，実施されていた。	9	1					4.9
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は，適切であった。	9	1					4.9
	(6)授業の進む速さは，適切であった。	8	1	1				4.7
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	9	1					4.9
	(8)教科書や配布された資料は，適切であった。	8	2					4.8
	(9)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	9	1					4.9
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	9	1					4.9
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	10						5.0



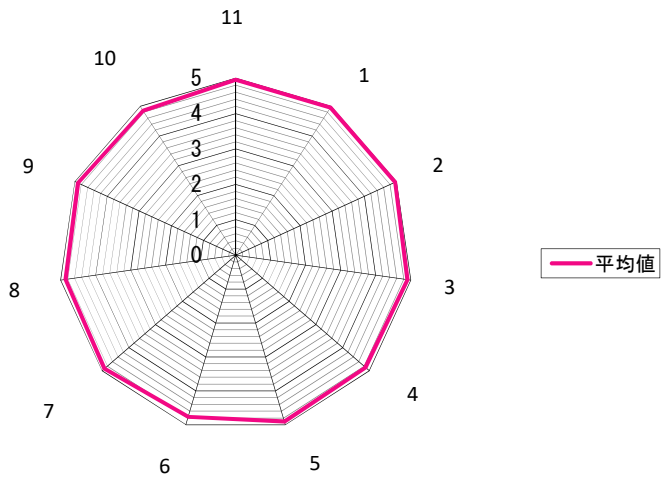
教員のコメント

授業の進度についてやや評価が低いものも見受けられたがおおむね授業内容について満足している学生がほとんどであったことが分かった。

結果報告書

授業科目名　日本語文法研究
評価実施日　令和1年8月2日
担当教員名　田中　大輝　　回答者数　21　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	20	1					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	20	1					5.0
	(3)各コース・領域・分野の目指す人材の育成につながる内容であった。	19	2					4.9
	(4)授業では，ｼﾗﾊﾞｽに示されたｱｸﾃｨﾌﾞ・ﾗｰﾆﾝｸﾞが，実施されていた。	18	3					4.9
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は，適切であった。	19	2					4.9
	(6)授業の進む速さは，適切であった。	17	3	1				4.8
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	19	2					4.9
	(8)教科書や配布された資料は，適切であった。	18	3					4.9
	(9)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	19	2					4.9
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	18	1	1			1	4.9
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	20	1					5.0



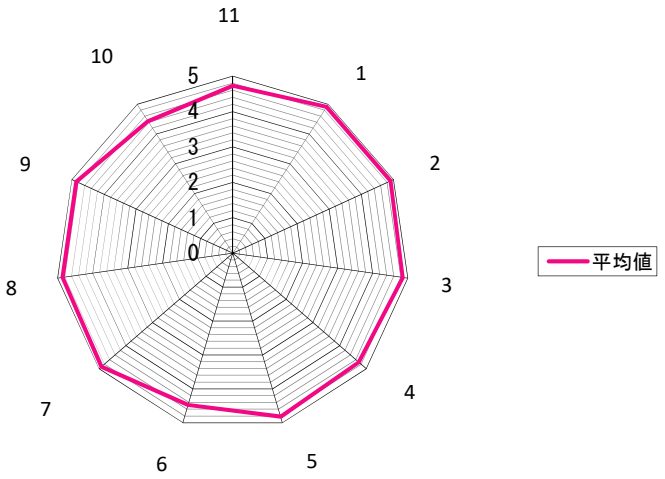
教員のコメント

本授業では，日本語文法のうち，特に，日本語教師としての基礎的事項，および，日本語学習者が誤りやすい項目について理解を深めることで，日本語学習者に対して適切な文法指導ができるようになることを目標とした。授業評価アンケートの自由記述の項目では，「発表とディスカッションを通して，いろいろ勉強になりました。」，「グループを組む際に，各々の専門であったり，留学生と日本人との組み合わせなど配慮されていた」など，授業の方法を高く評価する声が多く見られた。一方で，「少しゆっくりになったと感じられる」，「発表時間は少なかった。テーマに関する内容を詳しく発表できなかった。」など，授業の時間配分に関して改善（再考）を求める声も出ていたので，今後の参考としたい。

結果報告書

授業科目名　日本語音声表現研究
評価実施日　令和1年8月5日
担当教員名　田中　大輝　　回答者数　22　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	20	2					4.9
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	19	2				1	4.9
	(3)各コース・領域・分野の目指す人材の育成につながる内容であった。	18	3				1	4.9
	(4)授業では，ｼﾗﾊﾞｽに示されたｱｸﾃｨﾌﾞ・ﾗｰﾆﾝｸﾞが，実施されていた。	16	4	1			1	4.7
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は，適切であった。	19	2	1				4.8
	(6)授業の進む速さは，適切であった。	16	2	1	1	1	1	4.5
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	19	2				1	4.9
	(8)教科書や配布された資料は，適切であった。	18	3				1	4.9
	(9)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	18	3				1	4.9
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	14	4	1	2		1	4.4
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	16	6					4.7



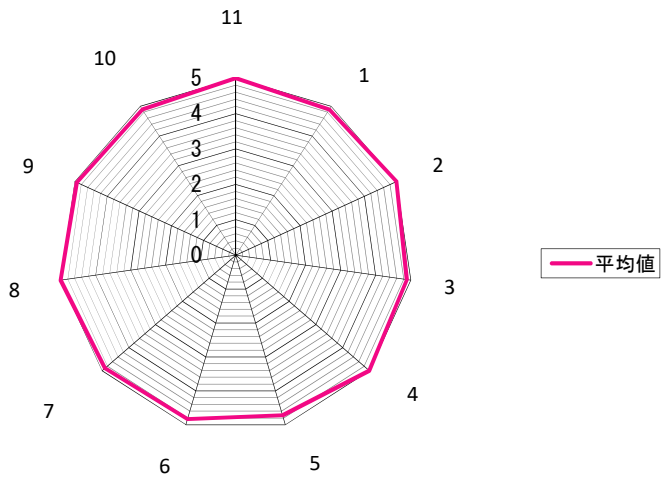
教員のコメント

本授業では，日本語音声のうち，特に，日本語教師としての基礎的事項，および，日本語学習者が誤りやすい項目について理解を深めることで，日本語学習者に対して適切な音声指導ができるようになることを目標とした。授業評価アンケートの自由記述の項目では，「ていねいにわかりやすく，かつ計画的に授業が進められていた。質問時間をしっかりとってくれたことも良かった。」，「内容はやや複雑なものだったが，受講生が理解できるよう詳しく丁寧に講義してくださった」など，受講者の理解を促すための担当教員の工夫を高く評価する声が多く見られた。一方で，「進度が遅く感じられた。」，「授業の頭で前回のコメントカードの振り返りを行うが，それだけで45分もいらない。」など，授業のタイムマネジメントについて改善を求める声も出ていたので，今後の参考としたい。

結果報告書

授業科目名　社会言語学研究
評価実施日　令和1年8月10日
担当教員名　永田　良太　　回答者数　18　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	16	2					4.9
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	18						5.0
	(3)各コース・領域・分野の目指す人材の育成につながる内容であった。	17		1				4.9
	(4)授業では，ｼﾗﾊﾞｽに示されたｱｸﾃｨﾌﾞ・ﾗｰﾆﾝｸﾞが，実施されていた。	18						5.0
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は，適切であった。	14	3	1				4.7
	(6)授業の進む速さは，適切であった。	15	3					4.8
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	16	2					4.9
	(8)教科書や配布された資料は，適切であった。	18						5.0
	(9)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	17	1					4.9
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	16	2					4.9
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	18						5.0



教員のコメント

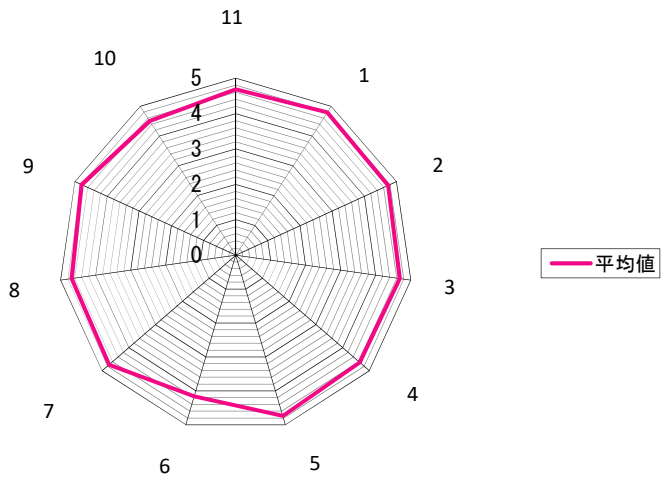
本授業は，「ことばのバリエーション」，「会話の仕組み」，「言語意識」，「言語政策」という観点から，普段無意識に使用している日本語の実態と使用規則について意識化するとともに，日本語教師として必要な社会言語学的知識を身につけることを目標とした。このような授業目標を達成する上で，留学生や様々なコースの学生の参加が得られたことは有意義であった。留学生の参加が得られたことで，他の言語と比較を通して日本語の社会言語学的特徴が明らかになるとともに，日本語学習者としての視点からの発言により，習得上の問題点を確認することができた。また，様々なコースの受講生から，それぞれの専門的観点からの意見が出され，議論を深めることができた。

今回の評価結果を見ると，いずれの項目も高い評価を得ており，本授業に対して受講者自身も達成感を感じているものと思われる。今後は，評価の観点をさらに明確にするとともに，それぞれのコース・領域・分野の目指す人材の育成に一層つながるような授業づくりに取り組みたい。

結果報告書

授業科目名　言語習得･発達論
評価実施日　令和1年8月2日
担当教員名　田中　大輝　　回答者数　19　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	16	2	1				4.8
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	15	3	1				4.7
	(3)各コース・領域・分野の目指す人材の育成につながる内容であった。	15	2	2				4.7
	(4)授業では，ｼﾗﾊﾞｽに示されたｱｸﾃｨﾌﾞ・ﾗｰﾆﾝｸﾞが，実施されていた。	14	3	2				4.6
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は，適切であった。	17	1			1		4.7
	(6)授業の進む速さは，適切であった。	10	5	2	1	1		4.2
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	15	3	1				4.7
	(8)教科書や配布された資料は，適切であった。	14	4	1				4.7
	(9)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	15	4					4.8
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	12	3	3			1	4.5
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	15	2	2				4.7



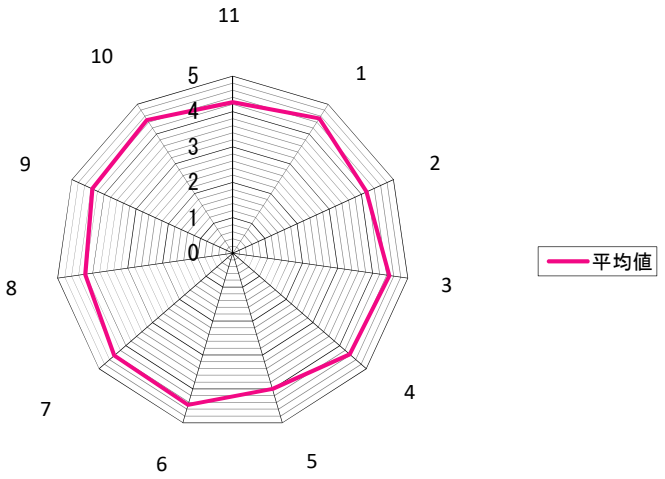
教員のコメント

本授業では，日本語学習者の習得のメカニズムを理解し，実際の教室活動に役立てられるようになることを目標とした。授業評価アンケートの自由記述の項目では，「この授業では専門に関する知識が自ら資料を探して理解してから発表するようとすることが良かったと思います。」(原文ママ)，「学生は全員，自分が好きなテーマを選んで資料を作って発表しました。いい経験を積んだと思います。特に自分の担当部分はよく資料を調べましたので，その部分の専門知識は身に付けました。この授業を受けて良かったと思います。」(原文ママ)など，演習形式の授業方法を高く評価する声が多く見られた。一方で，「内容が難しいので，なかなかディスカッションにならなかった。」，「目安として1.5コマで終わらないといけないはずが，1グループで2コマも3コマも使っているところもあり，内容の質としても良くないところもあった。」，「グループ内で課題への取り組み方に大きな温度差があった。ほとんどやった人とやらなかった人に分けられる。」など，授業内容の難しさや，受講者の発表内容・授業への取り組みの姿勢に対する不満の声もあがっていた。今年度は参加者が21名(履修15名＋聴講6名)と多かった(昨年度は5名，一昨年度は6名)ため，例年に比べて授業内外での指導が行き届かなかったところに問題があったと思われる。今後の課題としたい。

結果報告書

授業科目名　日本語教育学研究
評価実施日　令和1年7月30日
担当教員名　廣田　知子　　回答者数　19　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	13	3	3				4.5
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	9	5	4	1			4.2
	(3)各コース・領域・分野の目指す人材の育成につながる内容であった。	11	6	2				4.5
	(4)授業では，ｼﾗﾊﾞｽに示されたｱｸﾃｨﾌﾞ・ﾗｰﾆﾝｸﾞが，実施されていた。	11	5	2	1			4.4
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は，適切であった。	7	5	7				4.0
	(6)授業の進む速さは，適切であった。	10	8	1				4.5
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	11	6	1	1			4.4
	(8)教科書や配布された資料は，適切であった。	10	6	1	1	1		4.2
	(9)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	11	5	2	1			4.4
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	11	6	2				4.5
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	10	5	3	1			4.3



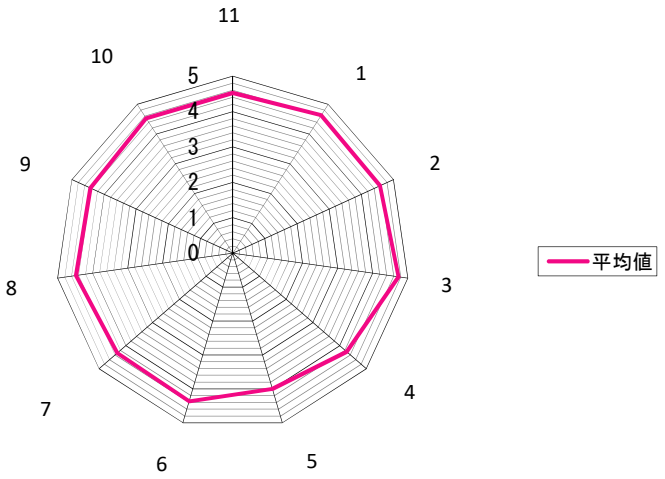
教員のコメント

最初のオリエンテーションの際に、授業評価方法の説明をもう少し丁寧に行うべきだと考えている。特に留学生も混じっているクラスなので、来年度は、理解度を確かめながら、適切に行いたい。

結果報告書

授業科目名　日本語教育法研究（日本語教育観察実習）
評価実施日　令和1年7月25日
担当教員名　廣田　知子　　回答者数　19　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	（1）授業概要は，この授業を適切に表現していた。	13	5	1				4.6
	（2）専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	13	4	2				4.6
	（3）各コース・領域・分野の目指す人材の育成につながる内容であった。	15	3	1				4.7
	（4）授業では，ｼﾗﾊﾞｽに示されたｱｸﾃｨﾌﾞ・ﾗｰﾆﾝｸﾞが，実施されていた。	10	5	3	1			4.3
教員の授業の進め方について	（5）成績評価の方法の説明は，適切であった。	8	5	4	2			4.0
	（6）授業の進む速さは，適切であった。	9	8	2				4.4
	（7）受講生に分かりやすく説明した。	9	7	3				4.3
	（8）教科書や配布された資料は，適切であった。	13	2	4				4.5
	（9）板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	12	3	4				4.4
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	12	5	2				4.5
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	10	9					4.5



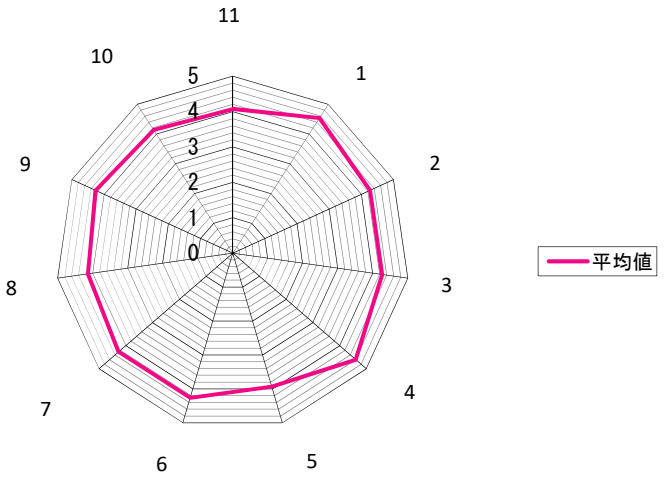
教員のコメント

新カリキュラムになって初めての授業であったので、内容的に観察期間がこれでよかったのかとか多々反省点はある。授業評価の方法がわかりにくかったようなので、来年度からは、もう少し丁寧に第1回目の授業の時に説明するよう心掛けたい。

結果報告書

授業科目名　日本文化研究
評価実施日　令和1年7月25日
担当教員名　廣田　知子　　回答者数　15　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	9	5	1				4.5
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	10	2	1	1	1		4.3
	(3)各コース・領域・分野の目指す人材の育成につながる内容であった。	8	4	2	1			4.3
	(4)授業では，ｼﾗﾊﾞｽに示されたｱｸﾃｨﾌﾞ・ﾗｰﾆﾝｸﾞが，実施されていた。	9	6					4.6
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は，適切であった。	7	2	4	2			3.9
	(6)授業の進む速さは，適切であった。	8	4	2	1			4.3
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	9	2	3	1			4.3
	(8)教科書や配布された資料は，適切であった。	9	2	2	1	1		4.1
	(9)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	9	2	3	1			4.3
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	8	3	3		1		4.1
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	6	4	3	1		1	4.1



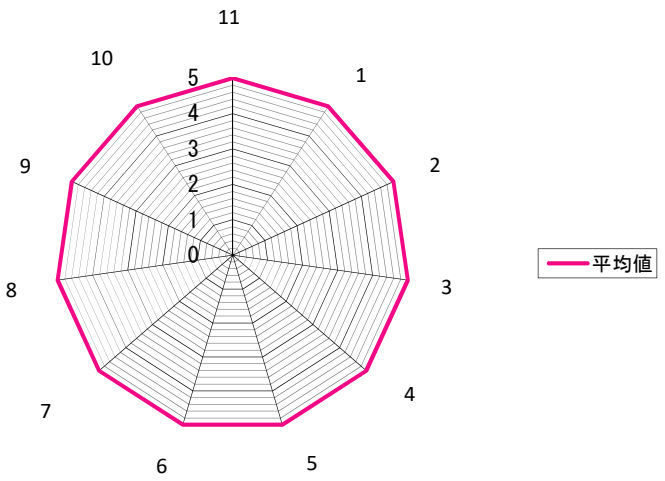
教員のコメント

新カリキュラムになって初めての授業科目である。教師がレクチャーするというより、学習者主体で、自らが考える日本文化についての発表が主であったが、どういう内容でどういう発表をすれば高評価が得られるのかという説明が足りなかったと思っている。今年度の経験を踏まえて、来年度からは、第1回目の時に、日本文化を考える際の観点を丁寧に説明し、や発表の仕方などについて適切に伝わるよう努めたい。

結果報告書

授業科目名　日本語Ⅰ
評価実施日　令和1年8月1日
担当教員名　田中　大輝　　回答者数　12　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	12						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	12						5.0
	(3)各コース・領域・分野の目指す人材の育成につながる内容であった。	12						5.0
	(4)授業では，ｼﾗﾊﾞｽに示されたｱｸﾃｨﾌﾞ・ﾗｰﾆﾝｸﾞが，実施されていた。	12						5.0
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は，適切であった。	12						5.0
	(6)授業の進む速さは，適切であった。	12						5.0
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	12						5.0
	(8)教科書や配布された資料は，適切であった。	12						5.0
	(9)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	12						5.0
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	12						5.0
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	12						5.0



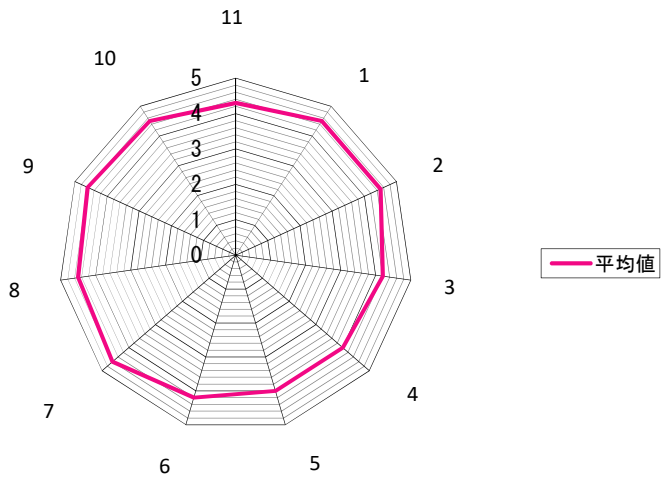
教員のコメント

本授業では，本学で学ぶ留学生たちに，「グループで互いに協力し合える能力」，「データの収集やまとめを適切に行える能力」，「自分たちの考えを支持する証拠を探し出せる能力」，「自分たちの考えを日本語で適切に表現できる能力」等を身につけさせることを目的として，演習発表形式のスタイルを採った。参加者は留学生12名（大学院生7名，研究生の聴講1名，学部生（特別聴講学生）の聴講4名）であった。授業評価アンケートの自由記述の項目では，「プレゼンテーション，powerpoint，発表のコツなどたくさんの事はこの授業を通して，できるようになりました。とてもいい授業だと思います。」（原文ママ），「田中先生は学生に内容を分かりやすくためたくさん工夫しました。そして発表資料も何回何回も直してくれました。資料だけではなく，先生の真面目さも伝わってきました。」（原文ママ）など，授業内容や授業方法を高く評価する声が多く見られた。一方で，「グループの人数をバランスできたらもっとよくなれると思う。」（原文ママ）のように，グループ編成のあり方について再考を求める声も見られた。本授業は参加者の日本語能力に著しい隔たりが見られた（N1レベル～N3レベル）ため，全員のニーズに応えることは難しかったのであるが，できる限り幅広い参加者に満足を与えられるよう，今後も最善を尽くしたい。

結果報告書

授業科目名　日本語Ⅱ
評価実施日　令和1年7月29日
担当教員名　廣田　知子　　回答者数　10　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	7	1	2				4.5
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	5	5					4.5
	(3)各コース・領域・分野の目指す人材の育成につながる内容であった。	4	4	2				4.2
	(4)授業では，ｼﾗﾊﾞｽに示されたｱｸﾃｨﾌﾞ・ﾗｰﾆﾝｸﾞが，実施されていた。	4	3	2	1			4.0
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は，適切であった。	4	2	4				4.0
	(6)授業の進む速さは，適切であった。	4	4	2				4.2
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	6	4					4.6
	(8)教科書や配布された資料は，適切であった。	7	1	2				4.5
	(9)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	6	4					4.6
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	5	5					4.5
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	4	5	1				4.3



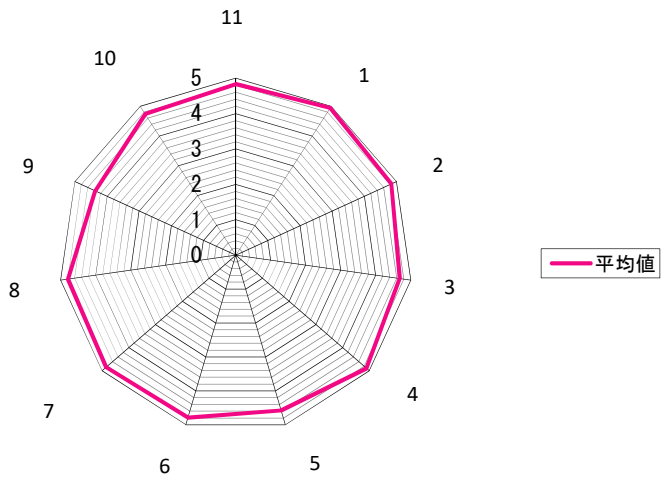
教員のコメント

本来、日本語教育分野の院生のための日本語科目だが、1年間の交換留学生も混じっているため、非漢字圏の学生にとっては、内容的に難しく、モティベーションを下げる結果となってしまったのは残念である。来年度からは、同様の学習者となることを見越して、レベル差のあるクラスでどうやって教材を選び、学習者すべてがある程度の達成感を得られる授業にすることができるのか、よく教材等を吟味、再考したい。

結果報告書

授業科目名　異文化コミュニケーション研究
評価実施日　令和1年7月24日
担当教員名　眞野　美穂　　回答者数　19　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	18	1					4.9
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	16	3					4.8
	(3)各コース・領域・分野の目指す人材の育成につながる内容であった。	13	6					4.7
	(4)授業では，ｼﾗﾊﾞｽに示されたｱｸﾃｨﾌﾞ・ﾗｰﾆﾝｸﾞが，実施されていた。	17	2					4.9
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は，適切であった。	14	2	3				4.6
	(6)授業の進む速さは，適切であった。	15	4					4.8
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	16	3					4.8
	(8)教科書や配布された資料は，適切であった。	15	4					4.8
	(9)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	12	2	5				4.4
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	15	3	1				4.7
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	15	3				1	4.8



教員のコメント

今年度から新たに設けられた授業であり、受講生の予想もできなかったため、少し戸惑いつつ開始したというのが本音である。授業評価を見ると、全体的な評価は高かったものの、改善が必要なところが多々あることが分かった。ただ、留学生を含む様々な背景を持つ受講生が意見を出し合える点で、「異文化コミュニケーション」を実践的に扱えた点は、想定外でありがたいものであった。ただ、様々な意見が白熱するが故に、時間管理の難しさもあった。来年度以降、今年度の反省を生かし、授業内容の改善を行いたいと思う。